

# 港北区災害ボランティア連絡会ニュース



事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会  
 TEL 045-547-2324 FAX045-531-9561 95号  
 FB 港北区災害ボランティア連絡会 2021年8月



\* 入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください

## 横浜市・内水氾濫ハザードマップ改定

中国河南省で7月16日から続く豪雨の雨量がなんと時間あたり200ミリを超えたと言う信じられない量の降雨があったそうです。三日間で通常の1年分の雨が降ると言う1000年に1度の出来事と報道されました。

このような尋常でない異常気象は日本も例外ではありません。熱海市で土石流災害を起こしたときの雨は、港北区内でも大曽根台と烏山町で避難指示が出されたように他人事と思っはいけない事態が発生しています。激しくない降り方でも長時間続けば危険性は高まります。自宅の立地条件を良く知り、危険性を読み取る力をつけましょう。

**マップはどこでみることができる？**

行政区ごとのマップをホームページで公表しています。  
 ○内水ハザードマップ  
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kanashi/machi/zukuri-kankyo/kasen-keisaku/pepa-do/boosa/risu/hm.html>  
 ○洪水ハザードマップ  
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kanashi/boosa-kyoku-bohas/boosa-saiga/Map/flood-map.html>

**マップはどのように使えばいいの？**

自宅や学校、職場等の周辺やいつも通る所などに浸水が想定されていないか、危険性の高い場所を確認してください。ウェブサイトには、浸水被害を防止・軽減するための備えや大雨時の注意点も記載していますので、併せてご確認ください。

大雨が降ったらどうしたらいいのかな？  
 持ち出し品の準備や情報の入手方法なども確認し日頃から浸水に備えよう！

横浜市環境創造局や水道事業マネジメント課 令和3年6月発行  
 〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50番地の10 TEL:045-671-2838 FAX:045-664-0571  
 横浜市環境創造局

**内水ハザードマップを改定しました！  
 増加する大雨に備えよう**

**内水ハザードマップってなに？**

大雨時に下水道や水路などから浸水が想定される区域や浸水する深さなどの情報をまとめたマップです。浸水時の避難や日頃からの備えに活用するものです。

気候変動の影響により、近年、大雨が増えているよ。最大規模のリスクを示すため、想定し得る最大規模の雨（1時間に153ミリ）に更新したよ！

**内水と洪水ってなんのこと？**

内水とは、マンホールなどの下水道から水があふれること。洪水とは、河川の水が堤防を超えることや堤防が決壊することで河川の水があふれること。

内水と洪水では、想定している条件や浸水想定区域が違うことから、別のマップになっているよ。両方のマップで浸水の危険性を確認しよう！

横浜市は今年7月に内水氾濫のハザードマップを改定しました。最近の降雨の変化を受けて今回は153mm/時間に変更しました。ハザードマップはその地域の危険性を地図上で表したものです。水害のハザードマップは実情を反映できています。西日本豪雨での真備町の被害地域はハザードマップの危険地域とぴったりと重なっています。自宅周辺や自分の活動範囲の様子をあらかじめチェックしておきましょう。一昨年の台風19号の際に区内で浸水被害に遭われたお宅がありました。原因は排水溝が落ち葉で詰まっていたためだそうです。床下浸水でも水が入るとその後長期にわたって湿気が抜けず大変困ります。ハザードマップ上では危険と示されていないところまで注意しておくことが大切ですね。（宇田川）

# 災害時のアマチュア無線の活用

## 1 はじめに

私は、オートバイのツーリングでの通信手段として、アマチュア無線を始め、港北区非常通信協力会の会員兼役員として1年ほど活動しました。

## 2. 災害時における無線の活用

非常通信協力会は、災害時に区役所と避難拠点(小中学校)で無線局を運用して通信業務にあたり、地域防災訓練の際には無線設備の点検を行なっています。

ボランティアセンターにボランティアさんが来てくださるような状況になっても、携帯電話やインターネットが十分に回復しているとは限りません。このような際にもアマチュア無線の活用は有効と考えられます。

ボランティアセンターと各地の通信など、利用範囲は多数あります。

## 3. ルールは守りましょう

非常時だからと言って、ルール無視が許されるわけではありません。

ルールは守りましょう。

### 1) 無資格運用は行わない

「無線技師の資格がないのに運用」「自分が操作できる範囲を超えての運用」はいけません。

「無線局免許を受けていない無線機の運用」も同様です。

### 2) 他の通信の邪魔をしない

アマチュア無線を使って、他の団体が通信を行っています。その邪魔はしてはなりません。また、強力な電波を出して、他の緊急無線を妨げるようなことがあっては、絶対いけません。

## 4. 災ボラがアマチュア無線を活用するには

1) 「4級アマチュア無線技師」の有資格者数を増やしましょう。

2日間の講習と修了試験で資格が取得、合格率はほぼ100%、終身有効です。資格が取れば、自分が運用できる範囲の無線局で「ゲストオペレーター」として、電波を出すことができます。

災ボラが無線機を持っているのであれば、アマチュア無線局の開局申請を「社団局」として行なって、その構成員として通信を行うこともできます。

### 2) 関係する団体と話し合う

区、非常通信協力会、区内の防災関係団体と、アマチュア無線の利用について合意を結び、各団体と周波数利用の取り決めをする必要があります。

これによって「災ボラ内部」「災ボラと区」といった相手との通信に使用する周波数を事前に取り決めれば、交信相手を探して電波を無闇に出すことが防げます。

### 3) 年数回は訓練を行う

無線機も資格も持ちっぱなしでは使い方を忘れてしまうので、年に数回は災ボラ内部や、関係する団体との訓練を行いましょう。

(岩撫 義之)

<参考となるサイト>

公益財団法人日本無線協会

<https://www.nichimu.or.jp>

一般社団法人日本アマチュア無線連盟

<https://www.jarl.org/index.html>



## ～シリーズ災害食～

### ツナ缶のパエリア

材料 まぐろ油漬缶詰 1個、米 1合、顆粒スープ 少々

#### 作り方

1. まぐろ油漬缶詰を開け、油のみをフライパンに入れます
2. まぐろ油漬缶詰の油で米を炒めます(米は洗米せずに使用します)
3. 米が半透明になったところで、まぐろ油漬缶詰の中身(ツナフレーク)と水(150cc～200cc)を加え、蓋をして中火で7分、弱火で5分火をいれます(水の量で硬さが変わります)好みで顆粒スープなどの調味料を加えてください
4. フライパンの水分がなくなり、米が炊き上がったら出来上がりです

#### レシピのキモ

このレシピのいいところは「水をあまり使わない」というところです。薄味でよければ、調味料としての顆粒スープも入りません。ツナ缶と米と少しの水とカセットコンロ・フライパンがあれば作ることができます。米も無洗米である必要はありません。

米の炊飯には、洗米をふくめて結構大量の水が必要になります。災害時にもっとも貴重なのは「水」ですから、水をあまり使わずに食事を作ることができるのは大きなメリットだと思います。ただ、パエリアは普通の炊飯にくらべ米が膨らまないの、出来上がりは少なめになります。おこげができますが、それもまた美味しいですよ。 (中島)



左から

- ・材料
  - ・出来上がり
  - ・盛り付けイメージ
- です

### ハンディを持っている人が困っていることを知ろう(第2回)知的障害の場合

知的障害を持つ人はそれぞれの障害によって困りごとが違ってくるので一概に説明することは難しいものです。日頃から知り合っておくことがとても大切です。しかし周りの目を気にすることも多く、なかなか知り合ったり、話かけたりする機会がないのが実態ではないでしょうか。発災時に周りの目を気にして車中泊をせざるを得ない事例が過去の災害では多発しています。良く知らないことが差別や偏見を引き起こす最大の原因です。販売活動など行っている作業所は多くあります。利用する際声をかけて相手を知ることを始めてみませんか。また避難所に多様な困りごとを持つ人のための「福祉避難スペース」を設置することも求められます。



ヘルプマーク

今回は畔柳さんからのメッセージです。

(宇田川)

私の息子は知的障がいがあります。知的障がいは人それぞれ程度や能力に差がありその様子は異なります。息子の場合には言葉の理解が難しく会話は成立しないのですが、知的障がいがある事は外見からは分かりづらく普通に話しかけられます。彼は雰囲気で「うんうん」とうなずいてしまうので理解できていると判断されがちですが、わかっていないことが多いです。手助けが必要なことに気づいていただくためにヘルプマークを普段からつけていますがまだまだ知られていないのが現状です。避難所で困るのは言葉での案内や誘導が理解できないことです。絵や写真を使いわかりやすい言葉でゆっくり伝えていただくと助かります。息子の場合、加えて「聴覚過敏」という特徴もあります。大きな音が苦手で、特に赤ちゃんの泣き声や子供の騒ぐ声、工事やバイクの音、サイレンなどに過剰に反応しパニックになり泣き出したり大声を出したりします。注意されるとさらに混乱が大きくなります。誰もが疲れストレスを抱える避難所では皆さんの迷惑にもなりますし、私たち家族もとても気を使うこととなります。そんな時狭い空間で良いので静かに過ごせる場所を確保できるととても助かります。コロナ禍の今、公共の場でも自宅でも換気のため窓を開けるべきなのですが、彼にとっては苦手な音がダイレクトに入ってくるためストレスが増える生活になっています。 畔柳

## 熱海市土石流発生からボランティアセンター立上げまで

災害発生からボランティアセンター開設までどのような流れかを熱海の事例で見えます。

7月3日発災 震つな(注1)ML や JVOAD(注2)からの報告で情報交換が始まる。

- 同日情報共有会議開催 ・主催:静岡県ボランティア本部・情報センター
- 参加対象者:県内団体を中心に、県V本部関係者(県社協、県V協、茶の国会議)、県内東部賀茂の市町社会福祉協議会、南海トラフ巨大地震等に備えた災害Vネットワーク委員会、静岡県土業連絡会ほか、県外関係者(全社協など)

\*その後連日情報共有会議が開催される

7月5日 熱海市災害ボランティアセンター開設 ボランティア事前登録開始

7月18日 第一回伊豆山地区支援団体情報交換会

7月21日 熱海市災害ボランティアセンター活動開始

注1:震災がつなぐ全国ネットワーク(震つな)は阪神淡路大震災を契機に全国の災害支援団体が連携して活動を行うためのネットワーク

注2:JVOAD(全国災害ボランティア支援団体ネットワーク)2016年設立。災害時の連携強化を図るため、災害支援団体だけでなく企業、行政とも協同しながら活動を広めている。

\*静岡の場合以前から東海地震を想定しての全国のボランティアが集まる図上訓練を開催していたことがつながりを作るうえで役に立っています。「つながりは備え」です。(宇田川)

### 【編集後記】

- 台風の季節です。無線機が活躍するような災害が起きない事を祈ります。(岩撫)
- 100年に一度 というフレーズを頻繁に聞くようになりました。災害が日常になってます。(中島)
- 水害と言えば「洪水」。内水氾濫はじわじわ押し寄せてきます。排水溝、普段から気を付けましょう。(付岡)
- 昔、仕事関係で4級アマチュア無線技師免許を取りました。難しくないです。(室伏)